



多摩川

調布市立多摩川小学校 校長 上杉 潤
TEL. 042-481-7648
FAX. 042-499-4183
<https://www.chofu-schools.jp/tamagawa-sho/>

『 継続は、力なり 』

校長 上杉 潤

文部科学省は、「読書は子どもが、言葉を学び、感性を磨き、想像力を豊かにし、人生をより深く生きていく上で欠くことのできないものである」として、4月23日を「子ども読書の日」と決めました。2001年のことです。

多摩川小学校では、「読書に対する意欲を高め、読書のジャンルを広げる」ことを目標に掲げ、ただ今『もみじ読書旬間』実施中です。先月の学校だよりでもお伝えしましたが、期間は10月18日(火)から11月4日(金)まで。10月14日(金)には、図書委員から全校児童にお知らせとブックメニューについて話しました。金曜日は15分間の朝読書を設定し、本に触れる時間を確保します。図書委員の主体的な活動では、「図書ガチャ」「人気の本 総選挙」「図書館双六」や「としょかん BINGO」にも取り組みます。年間を通じて図書指導は行っていますが、この「もみじ読書旬間」が、読書を継続するための「速く走れるシューズ」になってくれることを期待しています。

私は趣味でジョギングをしています。もう30年近くになるでしょうか。駅伝大会で、不甲斐ない結果に終わったことがきっかけでした。もっと早く走れるようになりたい。そして、次の大会では記録を伸ばすことが目標になりました。欲張ってマラソンにも挑戦しましたが、結果が出ると意欲は持続しました。「速く走れるというシューズ」を購入したことも意欲の持続につながったと思います。

小学生の読書量に関するデータがあります。1991年から2021年までの読書に関する推移をみると、1か月の平均読書数は、5.8冊から12.7冊に増えています。1か月に一冊も本を読まなかった児童の割合は、10.7%から5.5%に減っています。＜公益社団法人 全国学校図書館協議会のデータより＞本離れが叫ばれている昨今、学校がより一層図書指導に力を入れているためか、保護者・図書関係者の皆さんのお力のおかげ、小学生の読書量は増えているのです。

私は、本屋に行くと長い間そこで過ごします。気になった本は、パッと見て買ってしまいます。サラッと読んで、特に記録もつけません。だから、同じ本が2冊本棚にあることは、よくあることです。同じ本を買ってしまうのです。読みが浅いのかもかもしれません。しかも、並行して2,3冊同時に読みます。子どもたちには、おすすめの読み方ではありません。しかし、本を読んでいるときは幸せですし、個々それぞれの読書でよいのだと思っています。本を読めば読解力が付くとか、言葉や漢字を覚えるとかの理屈よりも、本を読んで楽しいと感じる子どもたちを育てたいと考えています。

始めることや立ち上げることは、大切です。そして、継続することは、大変です。「令和の多摩川小学校」では、本を読み続ける子どもたちを育てるために、支援の在り方を工夫し続けます。

東京都教育委員会では、6月・11月・2月を「ふれあい月間」として、いじめや不登校・暴力などの問題行動を未然に防止し、子どもたちの健全育成を目指した取組を行っています。これを受けて、本校でも毎月のアンケート実施や「いじめ防止対策委員会」での会議、週ごとの教職員間の生活指導に関する情報共有などに取り組んでいます。お子様のことで、心配なことなどありましたら、いつでもご相談ください。

11月生活目標

「すすんで係や当番の仕事をしよう」

集団で生活する学校では、いろいろな係や当番の活動があります。

クラスの中では、係活動や給食当番、掃除当番、日直などです。学級で子どもたちが考え、計画、実行したことが学級のためになり、学校生活をより豊かなものにします。

学校全体では、4年生から代表委員が始まり、5・6年生は一人一人が委員会に所属します。各行事でも、役割を分担しています。全校の役に立っていることを実感し、自己有用感を高めながら、責任感をもって活動に取り組んでいます。こうした活動を通して、子どもたちは自主性を伸ばしていきます。また、下級生も上級生が活躍する姿を見て、全校のために活動することの大切さを学んでいきます。

11月は「すすんで係や当番の仕事をしよう」を目標に、子どもたちがより良い学校生活を送れるようにしていきます。

【生活指導部 末吉 隆一】

相談室だより

いよいよ学習発表会が近付いてきましたね。練習を重ね、自信をもって発表できそうという子もいれば、うまくできるか心配に思っている子もいると思います。「がんばればいいんだよ」「失敗しても大丈夫だよ」きっと親御さんや先生に励まされ、やってみようという気持ちになっている子もたくさんいると思います。人は失敗しても変わらず温かく迎えてくれる場所があると思えると、ちょっと難しいかなと思うことにも挑戦する気持ちになります。そして、失敗してしまった自分を受け入れてくれる場がある、人がいてくれることで本当の自己肯定感が育まれます。

緊張してきたら、目を閉じて深呼吸。それぞれの子が、自分らしく発表できることを祈っています。

(都 SC 大武)

勤務予定 大武・・・月曜日(9:00~16:45)
米本・・・木曜日(9:00~16:45)

※ご相談は相談室直通電話 042-481-5259 にお願ひします。

(不在時は留守電対応になります。お名前、ご連絡先を入れていただければ折り返し連絡いたします。)

11月の行事予定

◎はスクールカウンセラー
来校日です。

1	火	あいさつ運動週間始,安全指導	
2	水	委員会活動	
3	木	文化の日	
4	金	4 時間授業 もみじの読書旬間終	
5	土	東京都教育の日	
6	日		
7	月	あいさつ運動週間終 避難訓練	◎
8	火		
9	水	B 時程 4 時間授業	
10	木		◎
11	金		
12	土		
13	日		
14	月		◎
15	火		
16	水	5時間授業	
17	木	学習発表会リハーサル	◎
18	金	学習発表会①(児童鑑賞日) 月曜時間割	
19	土	学習発表会②(保護者鑑賞日) 5時間授業	
20	日		
21	月	振替休業日	
22	火	4 時間授業	
23	水	勤労感謝の日	
24	木		◎
25	金	特別支援合同学習発表会	
26	土		
27	日		
28	月		◎
29	火	音楽鑑賞教室(6)	
30	水	B 時程 4 時間授業	

日光移動教室

10月2日（日）から4日（火）までの2泊3日、日光移動教室に行って来ました。「どのような日光移動教室にしたいですか。」と、行く前に子どもたちに聞きました。「最後の宿泊行事だから、友達と最高の思い出を作りたい。」「日光移動教室を通して成長したい。」子どもたちは様々な思いを教えてくださいました。そんな思いを実現するために、出発までの1か月前から、様々な準備をしてきました。「マナーチェックコンテスト」というものを考えて、すすんで部屋の片付けをしたくなるようにしたり、キャンプファイヤーで盛り上がるためのアイデアを出し合ったり、工夫しながら準備を進めると共に、楽しい気持ちも少しずつ高めていきました。

当日は天候に恵まれ、3日間を通して全ての活動を快晴の中で行うことができました。奥日光では多くの自然と触れ合うことができました。小田代ヶ原のグループハイキングでは、東京の暑さを忘れるひんやりとした空気の中、所どころ紅く色付き始めた葉の様子に目を止め、秋を感じながら歩きました。時折立ち止まっては、雄大な男体山を見上げたり、赤や橙色に染まった草原に佇む貴婦人の木を眺めたりと、思い思いの方法で楽しみました。他にも、華厳の滝を流れ落ちる水の音や源泉での硫黄の香りを感じました。野生のシカにも沢山出会うことができ、奥日光の自然を満喫することができました。キャンプファイヤーでは、全員で火を囲み、ゲームをしたり、全員で声と心を合わせてフォークダンスを踊ったりしました。真っ暗な中にも子どもたちの明るい笑い声が響き、最高の夜となりました。皆で同じ景色を見て、同じ時間を過ごし、感動を分かち合うことで、心の距離が近くなる感覚を味わいました。

自然の他にも、普段と違う環境で過ごすからこそ学べることに目を向けてほしいと思っていました。例えば、保護者の方と離れて過ごすことで分かる「ありがたさ」、友達と多くの時間を共に過ごすことで分かる「ありがたさ」、宿舎や施設の方々の思いに触れて分かる「ありがたさ」などです。移動教室の後、「家の人と離れて、いつも自分のためにいろいろとしてくれていることを改めて感じた。」と、ある子が話してくれました。一人一人が様々な人の思いを知り、感謝の気持ちを見つけた日光移動教室であったと思います。日光移動教室で得た経験、感謝の気持ちをこれから卒業までの半年間で大きく育て、多くの人に伝えていってほしいと思います。

日光移動教室を通して、お互いが気持ちよく過ごすためのマナーの大切さ、周囲の人に対する感謝の気持ち、自律して行動することの大切さなど、多くのことを学ぶことができました。とても有意義な3日間でした。

保護者の皆様におかれましては、移動教室に向けての様々な準備にお力添えいただき、誠にありがとうございました。

【6年担任 山岡真由美】



ハヶ岳移動教室

9月12日(月)から14日(水)までの2泊3日、ハヶ岳移動教室に行きました。3日間天候にも恵まれ、予定していた行程を全て行うことができました。

飯盛山では、予想以上に気温が上がり、険しい山道に加え暑さとの戦いでもありました。そんな状況でも子どもたちは互いに励まし合い、全員登りきることができました。仲間と見る山頂からの絶景は、特別な思い出となったことと思います。滝沢牧場では、命の授業を受けた後、牛の乳しぼりや乗馬などを体験しました。昼食後は、待望のソフトクリームを食べ、広大な牧場で思い切り体を動かして過ごしました。また、郷土料理のほうとう作りにも挑戦しました。キャンプファイヤーでは、全員で火を囲み、実行委員が企画したゲームやたくさん練習したダンスをして盛り上がりました。また、星空観測では、天の川や東京では見るのが難しい数々の星座に出会い、最高の夜となりました。

移動教室中は、生活班と行動班に分かれて生活を共にしました。宿舎での行動は生活班(男女別)、外での活動は行動班(男女混合)で活動しました。集団生活において、時間を意識すること・仲間と協力すること・思いやりの気持ちをもつことの大切さを感じることができた3日間だったと思います。学びも課題も今後の学校生活や日常に生かして行ってほしいと思います。

自分の仕事に責任をもち協力し合う姿から、来年度には最高学年となり学校を引っ張っていく頼もしい姿を想像することができました。

保護者の皆様におかれましては、荷物の用意、健康管理等にお力添えをいただき誠にありがとうございました。

【5年学年主任 杉岡奈々子】



たまっ子広場(異学年交流)ができるまで

〈様子は、ホームページで〉

10月28日(金)までの間、4・5・6年生は、いかにして下学年を楽しませてあげようかと遊びを考え、教職員は、安全と活動の充実を考えました。担当者は、会場になる多摩川に足を運び安全点検。管理者との連絡で「工事が行われる・トラックが入ってくる」の情報を得、計画の見直しを行いました。700名を超える子どもたちが活動する広さを考え、最終的にはボール遊び・鬼ごっこを許可しました。子どもたち・教職員の活躍が、学校行事を支えています。